

平塚柔道物語 5 1

指導者

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

平成23年7月28日・29日は、神奈川県中学校柔道大会の全国県予選の日である。会場は伊勢原市体育館なので私もビデオカメラを持ち込み応援に駆けつけた。初日は団体戦である。浜岳中学校女子チームは順調に勝ち進み、準決勝では2対0で勝利、決勝となった。さすが強敵の相原中学校チームには、よく健闘したものの準優勝となった。男子のチームも1回戦より順調に勝ち進み、準決勝まで進む。相手はやはり強敵の相原中学である。こちらの浜岳中学は、今回つぶぞろいであった。先鋒・次鋒・大将は引分けであったが、中堅の坂牛選手が抑え込みで1本、副将の中村選手が投げ技で1本を取り、2対0で相原中学をくだし決勝戦に進んだ。決勝の相手は、全国トップクラスの東海大相模中学校である。先鋒の酒井選手、次鋒の芦川選手、中堅の坂牛選手まで引分けとなって5分と5分。続く副将の浜岳のエース中村選手が投げ技で1本を取る。しかし、大将戦で宮崎選手が負け、1対1の同点となり、代表選に持ち込まれてしまった。浜岳中は81kgの中村選手に対して、相手は120kgの浅野選手であった。90kg超級の全国のチャンピオンである。残念ながら体力負けで1本とられた。優勝は逃してしまったものの5人共よく健闘した。準決勝まで1度も負けた選手がいなかったからである。

続いて2日目の個人戦では6人が各階級で優勝し、過去最高の女子4人、男子2人が全国大会の切符を獲得したのである。今回の成果は、男子・女子・団体戦共に、またとない快挙であったといえよう。

大会終了後、部活顧問の真田教師は、皆の前で語る。「今日、男子団体戦で優勝した東海大学相模中学・女子団体戦の優勝した相原中学、あの中には小学生時代から全国1位であったり、県の代表だったり、有名な選手が全国から集

まって来ている。お前たちの中で小学生の頃、県のベスト4に入っていた者がいるか？今回の団体戦決勝では、相模中を相手に代表戦までもつれ込む試合を見せてくれた。お前たちは、この3年間やってきたことを誇りに思っている。ただ、相模中や相原中の選手はお前たちと同じ中学生でありながら、親元を離れ人生を賭けて柔道をしているんだ。そういう選手に勝つために、俺たちは一体何を賭けたらいいと思う？残っているのは命しかないよな？相手よりもっと上の物を賭けなければ、追いつき追い越すことは出来ないと思う。これから俺たちは命を賭けて柔道をやっていくぞ！！」と・・・そして、真田はなおも話を続けた。「俺は今回6人の優勝者を出しても、両手を挙げて万歳！！というわけにはいかない。この中に、途中で負けて悔しい思いをしている仲間がいるからだ。まず負けた者、力を発揮できなかった者に伝えたい。中学で結果が残せなくても高校で、高校でダメなら大学で、大学でダメなら社会人になってから・・・。いつか日本代表になって世界の頂点に立つ日を迎えるんだろう？その目標に向かって今日から始めればいい。」と語った。

勝った者、負けた者、共に皆の目が輝いていた。「よし、今日からだ！！今日からだ！！」と腹の底から決意しているように見えた。勝った選手への総括、負けた選手への激励。共に未来に向かって希望を与える真田教師の姿は、まさに指導者そのものであった。

選手たちにとって、暑い夏の日の中でも熱い1日だった。



準優勝の男子・女子チーム
左後 真田教師